資料3

令和3年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会 交流大会・社会教育委員研修会実施概要

1 趣　　旨	人生100年時代のこれからの未来に向け、社会教育＝学びあいが広がっていき、人や地域がつながっていくことが必要である。生活様式が変わりゆく中、人々によってはぐぐまれた地域の魅力を再発見していくことを目指す。
2 テ ー マ	明日に向け　学びの輪を広げよう！！ ～地域の魅力　グローバル社会で再発見～
3 日　　時	令和3年12月11日（土）午後1時30分から4時30分まで
4 会　　場	府中市市民活動センタープラッツ　バルトホール
5 内　　容	**■第1部　交流大会** ○式　典 開　　会　都市社連協副会長　谷部　憲一（昭島市） 挨　　拶　都市社連協会長　長畑　誠（府中市） 来賓祝辞　府中市教育長　酒井　泰　氏 東京都教育庁地域教育支援部生涯学習課 主任社会教育主事　梶野　光信　氏 祝辞紹介　一般社団法人全国社会教育委員連合 ○第52回関東甲信越静社会教育研究大会東京大会実施報告 ○各ブロック研修会実施報告 第1ブロック幹事　青梅市 第2ブロック幹事　武蔵村山市 第3ブロック幹事　稲城市 第4ブロック幹事　東村山市 第5ブロック幹事　狛江市 質疑応答 **■第2部　社会教育委員研修会** 郷土芸能を地域で受け継ぎ、発展させる ～武蔵国府太鼓の紹介とインタビュートーク～ 講師　武蔵国府太鼓　響会　会長　佐藤　祐三　氏 武蔵国府太鼓　響会　会長代行　市川　彰　氏 武蔵国府太鼓　響会　副会長　伊藤　三子　氏 武蔵国府太鼓　響会　役員　松村　薫　氏 武蔵国府太鼓　響会ジュニア所属　田中　礼侍　氏 閉　　会　都市社連協副会長　篠﨑　光正（調布市）
6 参加対象	多摩地区社会教育委員及び関係職員等

第52回関東甲信越静社会教育研究大会東京大会実施報告

報告者：令和３年度関東甲信越静社会教育研究大会東京大会実行委員会
委員長　長畑　誠

開始日時	令和３年１１月１１日（木）　１３時００分～１６時２５分 ※アトラクションは１２時３０分～１２時４５分
場　所	府中の森芸術劇場　どりーむホール
参加者数	２０１名

テ　ー　マ	明日に向け　学びの輪を広げよう！！ ～地域の魅力　グローバル社会で再発見～

【概要】※新型コロナウイルス感染拡大に伴い、会場参加は都内の方に限定し、都外の方には記録動画の配信を行うこととした。

アトラクション　　元気一番！！ふちゅう体操（参加型アトラクション）

開会行事
開会の言葉　令和３年度関東甲信越静社会教育研究大会東京大会実行委員会
副委員長　谷部　憲一
主催者挨拶　令和３年度関東甲信越静社会教育研究大会東京大会実行委員会
委員長　長畑　誠
一般社団法人全国社会教育委員連合　副会長　金藤　ふゆ子
来賓祝辞　東京都教育庁地域教育支援部主任社会教育主事　梶野　光信　氏
歓迎の言葉　府中市教育委員会教育長　酒井　泰　氏

基調講演
演題「みんながつくる＜社会＞へ
—人生100年時代、AI、そしてポストコロナ時代の社会教育—」
講師　東京大学教授　牧野　篤　氏

トークセッション
コーディネーター
東京学芸大学准教授・立川市生涯学習推進審議会委員　倉持　伸江　氏
登壇者
東京大学教授　牧野　篤　氏
演出家（ミュージカルアニーほか）・調布市社会教育委員　篠﨑　光正　氏
東海大学准教授・昭島市社会教育委員　二ノ宮リム　さち　氏
日本大学文理学部講師・町田市社会教育委員　吉田　和夫　氏

閉会行事
主催者挨拶　令和３年度関東甲信越静社会教育研究大会東京大会実行委員会
委員長　長畑　誠
閉会の言葉　令和３年度関東甲信越静社会教育研究大会東京大会実行委員会
副委員長　篠﨑　光正

※進行　西牧　たかね（調布市社会教育委員）
※12月1日～1月31日（予定）まで、東京大会ＨＰ（https://syakaiky.wixsite.com/website）にて大会記録動画（手話通訳付き）を配信中

第1ブロック研修会実施報告

報告者：青梅市社会教育委員会議　議長　宮野　良一

開始日時	令和3年11月6日（土）　14時00分～16時30分		
場　所	ネッツたまぐーセンター（青梅市文化交流センター）		
参加者数	58名	幹事市	青梅市

テ ー マ	人口減少地域を支える社会教育
形式（方法）	ワークショップ

【概要】

開会

開会のあいさつ　青梅市社会教育委員会議　議長　宮野　良一

主催者あいさつ　東京都市町村社会教育委員連絡協議会　副会長
調布市社会教育委員の会議　議長　篠﨑　光正　氏

開催市あいさつ　青梅市教育委員会　教育長　橋本　雅幸

ワークショップ

ファシリテーター　萩元　直樹　氏（たま社会教育ネットワーク）

話題提供者：市民活動グループ「ゆめなりき」

事例①　地域資源（森林）を活かした時続可能な学びの実践

事例②　盆踊りを通じた地域の社会関係資本の醸成

事例を聴き、その後、10グループに分かれて、1ラウンド15分ごとで以下のテーマでグループワークを行い、各グループで話し合った内容を全体で共有（発表）した。

第1ラウンド：ゆめなりきの事例から学んだことの共有

第2ラウンド：環境・社会・経済を統合的に考え、人口減少地域での社会教育のアクションを考えよう

第3ラウンド：各班の発表（2分）に備えてまとめ

社会教育に関わる人たちが地域の中核となって、「楽しむこと」で他の人たちを取り込んでいくことがポイントとなるという話がファシリテーターからあった。

閉会

次期第1ブロック幹事市あいさつ　福生市社会教育委員の会議　奥村　雄二　氏

閉会のあいさつ　青梅市社会教育委員会議　栗原　郁夫

＜参加者＞

58名（内訳：委員41名・事務局11名・ファシリテーター1名・話題提供者5名）

※青梅市事務局5名を除く。

第２ブロック研修会実施報告
報告者：武蔵村山市社会教育委員の会議　議長 齊藤　イト子

開始日時	令和 3年１２ 月４ 日（土）１４時００分～１５時３０分		
場　　所	さくらホール会議室１・２		
参加者数	３６名	幹事市	武蔵村山市

テ　ー　マ	伝統文化を未来へつなげる社会教育
形式（方法）	【第一部講演】拝島町の榊祭 【第二部講演】村山大島紬

【概要】
１３：３０～受付
１４：００～開会・挨拶
開会挨拶：武蔵村山市社会教育委員会議　議長　齊藤　イト子
主催挨拶：東京都市町村社会教育委員連絡協議会　会長　長畑　誠
開催市挨拶：武蔵村山市教育委員会　教育長　池谷　光二

１４：１０～第一部
　拝島日吉神社祭礼囃子保存会・昭島郷土芸能協会顧問　原島氏による講演会「昭島市拝島町榊祭りについて」

１５：０５～第二部
田房染織有限会社取締役会長、伝統工芸士　田代氏による講演会「村山大島紬について」
１５：３５～質疑応答

１５：４５～閉会・挨拶
閉会挨拶：次年度幹事市　立川市生涯学習推進審議会　議長　倉持　伸江

１５：５０　終了

第３ブロック研修会実施報告
報告者：　稲城市社会教育委員の会議　議長　安東　道正

開始日時	令和３年１１月１２日（金）１０時００分～１２時００分		
場　　所	地域振興プラザ　４階　大会議室		
参加者数	３０　名	幹事市	稲城市

テ　ー　マ	シビックプライドで活性化する地域コミュニティ 　　～住民の役割と行政の関り～
形式（方法）	・基調講演 ・事例発表

【概要】

○　開　会（１０：００～１０：１０）
　開会挨拶：安東　道正（稲城市社会教育委員の会議　議長）
　主催者挨拶：長畑　　誠（東京都市町村社会教育委員連絡協議会　会長）
　開催市挨拶：加藤　　明（稲城市教育委員会教育部長）

○　第1部（１０：１０～１１：１０）
　【基調講演】
　演題：地域の学びとシビックプライド
　講師：東京理科大学教授　伊藤　香織氏

　　（質疑応答）

○　第2部（１１：２０～１１：５０）
　【事例発表１】
　テーマ：市民団体と地域活性化
　　　　　～いなちちの会から広げたコミュニティ～
　発表者：橘　謙太氏

　【事例発表２】
　テーマ：稲城のいいところを次世代に繋げるための方策・構想
　発表者：稲城市社会教育委員の会議　副議長　渡邉　真砂子

○　閉　会（１１：５０～１２：００）
　まとめ：安東　道正（稲城市社会教育委員の会議　議長）
　閉会挨拶：土屋　和子（日野市社会教育委員の会議　議長）

第４ブロック研修会実施報告
報告者：東村山市社会教育委員の会議　議長 杉本　みさ子

開始日時	令和３年１１月１２日（金）１３時３０分～１６時３０分		
場　　所	東村山市民センター第１・第２・第３会議室		
参加者数	３０名	幹事市	東村山市

テ　ー　マ	～ＩＣＴ普及時代における地域づくり～
形式（方法）	（１）講演 講師　佐原 香織　氏（社会芸術ラボ ORINAS 代表） （２）事例発表 発表者　道林 京子 氏（なかの生涯学習サポーターの会　会長） （３）グループワーク “Let's Try!”

第５ブロック研修会実施報告
報告者：狛江市社会教育委員の会議　委員長 塚越　博道

開始日時	令和３年 11 月 20 日（土）　13 時 30 分～16 時 20 分		
場　　所	狛江市防災センター４階会議室		
参加者数	27 名（委員 21 名・事務局６名）	幹事市	狛江市

テーマ	「新しい生活様式における社会教育の実践」
形式（方法）	（１）講演「住職が考える、コロナ禍における生活様式の変化」 　講師　張堂 興昭　氏（調布市深大寺住職） （２）グループ討議　「新しい生活様式における社会教育の実践」 　委員３グループ・事務局１グループで実施

【概要】

第５ブロック研修会は、参加者 27 名（委員 21 名・事務局６名）で行った。狛江市からは教育部長、教育長が出席し、谷部都市連副会長、次期幹事市の板垣武蔵野市社会教育委員の会議議長にご挨拶をいただいた。

研修会については、社会教育委員の会議で１年半に渡り検討を重ね、コロナ禍により新しい生活様式の導入が進むなか、どのように社会教育を進めていけばよいのかということについて、意見を出し合い共に考えるため「新しい生活様式における社会教育の実践」とした。

研修会の形式は、講演とグループ討議の二部形式とし、寺子屋や講など、古くから寺社がコミュニティ施設や社会教育施設としての役割を担ってきているという視点から、「新しい生活様式における社会教育の実践」についてのヒントがもらえると考え、講演は、深大寺住職の張堂 興昭氏をお招きした。グループ討議は、結論を出すことではなく、意見を出し合い共に考えることを目的とするため、付箋を用いたブレーンストーミング形式とすることとした。

（１）講演　「住職が考える、コロナ禍における生活様式の変化」
調布市深大寺住職の張堂　興昭氏を招いて講演会を行った。

（２）グループ討議　「新しい生活様式における社会教育の実践」
委員３グループ・事務局１グループに分かれ、「新しい生活様式における社会教育の実践」をテーマとするグループ討議を行った。

＜出された意見のまとめ＞
オンラインの活用、ハイブリッド式の導入、コロナ化を逆にチャンスととらえること等のキーワードが上げられた。コロナ禍では、家族、友人等の近しい者とのつながりや、自己を振り返ることの重要性が再認識できた。一方で広範囲の交流、外とのつながりが遠のいてしまった。自己との対話や身近なつながりを大切にしつつ、オンラインを活用しながら、失われたつながりをどのように取り戻していけるかがこれからの社会教育活動の課題ではないか。

＜終了後のアンケートから＞
・「己を忘れて、他を利する」そうなりたいと意識するだけで人の行動は変わると私も思うので実践していきたいと思いました。
・コロナに振り回されたこの一年半を、客観的に考えることができる良い機会となった。
・なかなかご住職のお話を聞くことがないので、大変貴重な機会に参加することができて、ありがたかったです。グループ討議も有意義な時間でした。